

「多くの艱難の後に祝福は来る」 (教義と聖約 58:4)

ポリー・ナイトとその息子ニューエルを含むコールズビル支部の会員は奉献式に間に合う時期にミズーリ州ジャクソン郡に到着し、聖徒の集合の地としてシオンの地を奉献する式に参加することができました。ニューエル・ナイトは当時のことを回想してこう言っています。

「8月2日、神の預言者であるジョセフ・スミス・ジュニア兄弟の補佐の下で、コールズビル支部の会員は、インディペンデンスの20キロ近く西にあるカー・タウンシップに、シオンの……礎の最初の木材を据えました。木材は、イスラエルの12の部族を記念して12人の男性によって運ばれました。それと同時に、シドニー・リグドンの祈りによって、シオンに地が聖徒たちの集合のために聖別され、奉献されたのです。これはその場にいたすべての聖徒たちにとって、実に喜びと歓喜の時でした。

8月3日には、……インディペンデンスから少し西に行った所にある神殿の建設用地が、奉献されました。」(Newel Knight autobiography and journal, circa 1846 - 1847, Church History Library, Salt Lake City; spelling, capitalization, and punctuation standardized)

この奉献式に出席した長老たちの受け止め方は様々でした。

「レイノルズ・カフーンを始めとする幾人かの長老は、これらの象徴的な始まりに可能性を見いだして胸を躍らせました。カフーンはこのように記しています。『わたしはそこで大いなる驚くべき光景を目にした。こんな出来事をこの目で見ようとは、考えたことすらなかった。』しかし、エズラ・ブースはそのつつましい始まりに心を動かされませんでした。『好奇心からミズーリに行って見たが、その価値はなかった』と述べています。」(マシュー・マクブライド「エズラ・ブースとアイザック・モーリー」、『啓示の背景』マシュー・マクブライドとジェームズ・ゴールドバーグ編、または history.churchofjesuschrist.org参照)

8月7日、神殿用地が奉献されてから4日後に、ポリー・ナイトは亡くなりました。亡くなったときの様子を、息子のニューエルは次のように描写しています。

「母は静かに眠りに就きました。福音の新しくかつ永遠の聖約を喜び、生きてシオンの地を見ることができ、安らかな眠りに就けることで神をほめたたえながら息を引き取ったのです。悪しき者たちから迫害を受けて以来ずっと思った後のことでした。」(Newel Knight autobiography and journal, circa 1846 - 1847, Church History Library, Salt Lake City; spelling, capitalization, and punctuation standardized)

- シオンの地の奉献に対するポリー・ナイトの感じ方がエズラ・ブースの感じ方と大きく異なっていたのはなぜだと思いますか。
- 艱難の中でも忠実であり続けたことによってポリー・ナイトはどんな祝福を受けたのでしょうか。(教義と聖約 59:1-2 参照。この啓示は、ポリー・ナイトの葬儀の日に主から与えられました。)
- あなたはどんな経験から、艱難の中で忠実であり続ける者を主が祝福されることを知りましたか。

